



# RIKKYO SECOND STAGE

## Contents

- P1 公共財としてのセカンドステージ大学
- P2 13期入学式—学び直しと新たな出会い—
- P2~3 2020年度RSSC本科生へのアンケート結果
- P4 立教箱根駅伝2024
- P4 外国人留学生ビジネス日本語授業参加レポート

立教セカンドステージ大学(RSSC)は、立教大学が提供する生涯学習の場です。RSSCは、RIKKYO SECOND STAGE COLLEGEの略称です。



発行：立教セカンドステージ大学  
編集責任：長 有紀枝 編集：ニューズレター25・26号委員会  
発行日：2021年3月20日  
〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1



## 公共財としてのセカンドステージ大学

立教セカンドステージ大学副学長  
(立教大学副総長) 長 有紀枝



セカンドステージ大学(RSSC)について、21世紀社会デザイン研究科に進学した修了生を通じて、またRSSCで教鞭をとる先生方を通じて、ある程度のことは知っているつもりでした。しかし、昨年4月、副学長に就任し関わり始めたセカンドステージ大学の運営は発

見や驚き、そして気付きの連続でした。その一つが、タイトルに掲げた、セカンドステージ大学は、立教大学の「公共財」であるということです。

人生100年時代を迎えた今日、「社会人の学び直し」、「学び直し学習」は、当事者であるシニア世代やミドル世代のみならず、教育機関や企業、自治体などが注目する分野です。

その証拠に、メディアのみならず企業からの取材依頼も多く、先日は、子どもや若者をターゲットにした複合商業施設の運営会社から聞き取り調査の依頼があったばかりです。

そんなセカンドステージ大学の運営に関わるようになって1年、リカレント教育のみならず、人が年齢にかかわらず学び続けることの意義を目の当たりにする毎

日です。

以前、季刊「立教」に寄せたコラム「私の研究室から」で大好きな庄司薫氏の小説の一節を紹介しました。

「(これだけは笑わないで聞いて欲しいのだが) たえば知性というものは、すごく自由でしなやかで、どこまでもどこまでものびやかに豊かに広がっていくもので、そしてとんだりはねたりふざけたり突進したり立ちどまったり、でも結局はなにか大きな大きなやさしさみたいなもの、そしてそのやさしさを支える限りない強さみたいなものを目指していくものじゃないか」「同時にぼくがしみじみと感じたのは、知性というものは、ただ自分だけではなく他の人たちをも自由にのびやかに豊かにするものだというようなことだった」(庄司薫、『赤頭巾ちゃん気をつけて』、中公文庫)。

肉体の衰えは誰にでもやってきます。しかし、学びや思考は、何歳になろうと人を自由にします。頭が固くなるのは、老化現象ではなく、年齢を重ねてそうなる人もいる、という「個」のお話です。学びや研究を通じて、益々自由に、のびやかに飛翔する知性や精神の持ち主である受講生や教員陣を私はセカンドステージ大学を通じて知っています。コロナ禍にあらうと、もっとも円熟味を帯びた人生のステージで学べるセカンドステージ大学は、立教大学のみならず、100年時代を迎える日本の社会全体にとっての公共財であると思います。

## ●13期入学式 ―学び直しと新たな出会い―

9月18日（金）立教セカンドステージ大学本科13期生12名の入学式が池袋キャンパス諸聖徒礼拝堂（チャペル）で行われました。

本年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、秋学

期からの開講となりましたが、郭洋春学長の訓辞、五十嵐正司チャプレン長の祝祷、パイプオルガンの荘厳な演奏や立教大学の校歌が流れる中で、新入生一同、新しい出発への決意を新たにしました。



学長訓辞



教員および受講生



入学式の様子

（奈良田 優）

## 2020年度RSSC本科生へのアンケート結果

立教セカンドステージ大学13期（2020年度）は新型コロナウイルスが日本に蔓延した中での様々な困難のうちに開講された。13期の特徴を要約すれば次のようになる。①本科生12名の受講生②秋学期のみの主としてオンライン授業（対面の必修授業2科目も12月からオンライン講義へ変更）

13期入学者の横顔と受講生へのアンケート結果はこのようになる。

注：秋学期の授業を5回受講した後の10月下旬にアンケートは実施された。

秋学期内に、6科目以上のオンライン授業と対面の必修授業2科目（オムニバス・ゼミ）の受講が求められた。

### \*アンケート回答者属性

| 年齢  | 人 |
|-----|---|
| 50代 | 2 |
| 60代 | 7 |
| 70代 | 3 |
| 80代 | 0 |

12人

| 性別 | 人 |
|----|---|
| 男性 | 8 |
| 女性 | 4 |

12人

| 通学時間    | 人 |
|---------|---|
| 0～30分   | 3 |
| 30～60分  | 4 |
| 60～90分  | 3 |
| 90～120分 | 2 |
| 120分以上  | 0 |

12人

### \*オンライン授業

13期は全員で12名であり、一講義の受講者数は例年に比して極めて少なく、一講義当たり平均3名の受講者であった。又、教員と受講生がマン・ツウ・マンの授業が5クラスあった。

### \*オンライン授業の受講者数

| 一講義における受講者数 | 1名 | 2名  | 3名  | 4名  | 5名  | 6名 | 7名 | 8名 | 1科目当たり平均受講者数<br>(全学共通科目含まず) | 全学共通科目(オンライン)を履修しているのべ人数 | 13期が受講している、オンラインのべ受講科目数 |
|-------------|----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|-----------------------------|--------------------------|-------------------------|
| 受講しているのべ人数  | 5名 | 10名 | 12名 | 12名 | 11名 | 9名 | 9名 | 5名 | 3名                          | 9名                       | 82科目                    |

※全学共通科目は、立教大学学部生のための科目で、一定の条件の下、受講が認められる。  
※受講しているのべ人数は、科目聴講生は含まない。

### \*オンライン授業・対面の必修授業（オムニバス・ゼミ）への受講生の評価

オンライン・対面の必修授業（オムニバス・ゼミ）へ受講生は「満足している」とアンケートから判断される。

\* 受講生の自由記述は次のような内容であった。

注：各欄の最初の数字 ⑤大いに満足 ④満足 ③普通 ②やや不満 ①不満を示す。



### \*オンライン授業への評価

|       | Aゼミ | Bゼミ | Cゼミ | 合計 |
|-------|-----|-----|-----|----|
| 大いに満足 | 0   | 0   | 0   | 0  |
| 満足    | 3   | 2   | 2   | 7  |
| 普通    | 1   | 1   | 1   | 3  |
| やや不満  | 0   | 1   | 1   | 2  |
| 不満    | 0   | 0   | 0   | 0  |

12人

### \*対面の必修授業(オムニバス)

|       | Aゼミ | Bゼミ | Cゼミ | 合計 |
|-------|-----|-----|-----|----|
| 大いに満足 | 0   | 0   | 0   | 0  |
| 満足    | 0   | 0   | 3   | 3  |
| 普通    | 4   | 4   | 1   | 9  |
| やや不満  | 0   | 0   | 0   | 0  |
| 不満    | 0   | 0   | 0   | 0  |

12人

### \*対面の必修授業(ゼミ)について

|       | Aゼミ | Bゼミ | Cゼミ | 合計 |
|-------|-----|-----|-----|----|
| 大いに満足 | 2   | 0   | 1   | 3  |
| 満足    | 2   | 1   | 1   | 4  |
| 普通    | 0   | 2   | 2   | 4  |
| やや不満  | 0   | 1   | 0   | 1  |
| 不満    | 0   | 0   | 0   | 0  |

12人

### \*オンライン授業へのコメント

- 「④ オンデマンドとリアルタイムがあります。オンデマンドは本来の授業時間に関わりなく受講できる、何度も見直しができる、ところがいいです。しかし臨場感に欠けます。リアルタイムは他の受講生が身近に感じられていいですが、パソコンに不具合がでたらと、どきどきします。」
- 「④ 一日3科目の授業を受けているので、目がとても疲れ、視力も落ちてきた感じがします。人数が少ないので緊張はありますが、慣れれば質問もし易いです。一科目の授業時間を90分から短くすることが、オンラインの場合必要だと感じます。」
- 「④ 予想していた以上に楽しく授業に参加出来ています。」
- 「③ オンライン教育は今後発展する教育方法であると思っています。特にシニア対象のRSSCでは、従来の授業・講義形態を超えたオンライン対応が受講側講義側双方に求められるのではないかと？」
- 「② 教科書的なものがなかったり、資料がプリントアウトできない場合があり、復習や内容の定着が難しい講義がある。初めに、かなりパソコンの操作に職務的に何年も使ってきた人でないと、オンライン授業を健やかに受けることは難しいと言っていました。」
- 「④ オンデマンド方式の授業があるが、Zoomにより直接先生とリアルタイムでコンタクトできるようにしてもらいたい。」
- 「④ だんだん慣れてきましたが、毎回つながるかどうかがドキドキしています。受講生が少ない中でも、丁寧に授業をしてくださる先生方に感謝しています。」
- 「② Zoomによる講義は様々な障害を乗り越えての開講と思量します。感謝しています。1) Zoomは当方も初めてでしたので、事前の操作説明があればさらに講義が円滑にスタートしたのではないかと思います。2) 立教時間とBlackboardの統一の2点を要望します。」
- 「③ 先生も生徒も手探りでオンライン授業であるが、4～5回目位から慣れてきたように思います。最初にオンラインの中でZoom使い方説明等があったら良かったと思います。」
- 「④ どちらの先生も熱心に講義してくださって満足しています。」
- 「④ コメント無し」「③ コメント無し」

### \*ゼミへのコメント

- 「④ 社会経験が違って楽しくやっていたものだなあと嬉しく思っています。今後も助け合いながら、楽しくやっていたらと思います。」
- 「⑤ 色々な意見が出て、他のメンバーに助けてもらいながら、楽しくやりがいを感じています。」
- 「⑤ 意見の交換が活発で、楽しい雰囲気の中で過ごしています。刺激も有り、頭の中が活性化されている様な感じがします。」
- 「④ 4人の少人数のため共同体感覚が醸成され、新鮮な「気づき」を覚える。」
- 「③ 戸惑う進行の方法で、指導に沿って行えるかとても困難を感じている。女性も一人だけで疎外感を感じている。」
- 「② 現行のゼミの人数は4名だが、意見も限られてしまうため最低限この倍の人数にしてもらいたい。」
- 「③ 先生やゼミのメンバーの皆さんから、いろいろ学ばせていただいています。論文を書くのは大変ですが、自分の考えを整理したり、新しいことに気づいたり、とても勉強になります。」
- 「③ 毎回、修了論文の内容を発表し、先生の指導やゼミ生のアドバイスを得ながら進めています。ただ、ゼミの規模として4人は過少であり、6～8人程度であればさらにゼミ活動が活性化されるのではないのでしょうか。」
- 「④ 少人数でのゼミとなったので、逆に交流が深まり、親密感の中で学ぶことができました。他のゼミ生の修了論文検討について異なる観点から考えたり、建設的な意見提起等は非常に自分の勉強になりました。」
- 「⑤ 先生には優しく教えて頂いてよく分かります。このような人数で贅沢だと思います。」
- 「④ コメント無し」「③ コメント無し」

(多田 一正)

## 立教箱根駅伝2024

立教大学は、2024年の創立150周年に向けた記念事業



中山選手 ©KGRR

として、2024年1月の東京箱根間往復大学駅伝競走(以下、箱根駅伝)本選出場を目指す「立教箱根駅伝2024」事業に取り組んでいます。本学体育会陸上競技部は、箱根駅伝が始まった1920年に創部され、1934年の第15回大会から出場しました。最高順位は1957年第33回大会の総合3位、通算27回出場という伝統校ですが、1968年の第44回大会を最後に出場が途絶えています(関東学生連合チームのメンバーとしては、2008年と2009

年に出場)。

このため、古豪復活を目指すべく、中央大学、エスビー食品、横浜DeNAランニングクラブで活躍した上野裕一郎氏が、男子駅伝監督として2018年12月に就任しました。加えて、2020年度には、箱根駅伝の強豪校にも引けをとらない記録を持つ選手が多く入部しています。



上野男子駅伝監督  
©立教大学

最近の成績は、昨年10月に東京・立川で行われた箱根駅伝予選会(21.0975km)で、上位10人の合計タイムが10時間54分12秒で総合28位となり、前回の記録を29分37秒も短縮しました。また、この予選会で、1年次生の中山凜斗(りんと)選手が541人中90位という成績を収め、関東学生連合チームのメンバーに選ばれました。そして、新春1月2日の箱根駅伝本選では、平塚中継所から小田原中継所までの第4区(20.9km)、の走者として出場。中山選手の力走はテレビに何度も映し出されるとともに、「Rの文字が箱根路を走っています」とアナウンスされ、立教大学を大きくアピールしました。

このように、本学体育会陸上競技部男子駅伝チームは2024年の箱根駅伝本選出場に向けて、着実にステップアップしています。ぜひ立教大学のキャンパスで学ぶ私達も一丸となって駅伝チームを応援しましょう!

(奈良田 優)



陸上競技部男子駅伝チーム ©立教大学

## 外国人留学生ビジネス日本語授業参加レポート

RSSC本科生3名と修了生3名が、昨年10月から今年1月にかけて、国際経営学コースで学ぶ外国人留学生(院生)、上級3名、中級2名のビジネス日本語授業(ゲストセッション全6回)に参加しています。本授業へのRSSCの参加は、2013年度からで、留学生が日本のビジネス環境を学び、ビジネス日本語の実践経験を積む事を目的としており、RSSCは「異世代共学」の一環として本授業に参加しています。今年度は、コロナ禍の影響でオンライン授業が進められています。

RSSCの6名はそれぞれ担当回を分け、会社の上司や取引先に扮して、日本企業の社員役の留学生と、社内会議や客先との商談場面を想定して面談をしています。私は中級を担当していますが、日本語はまだ少したどたどしさがあるものの、留学生は、普段会社内で使うビジネス

さには学ぶものが大いにあります。

国際経営学コースの卒業生は、海外の商工会議所、日本の大手情報通信企業、英語教師、ビジネスアナリスト等多方面で活躍しているとの事。留学生の皆さんが、自らが望む進路に向かって大きく前進する事を祈ります。

(船山 裕)

### <コーディネーターのコメント>

#### ・藤田先生(上級クラス)

ゲストセッションは、留学生にとって、実務場面に近い練習が経験できる貴重な時間です。ロールプレイでいただくアドバイスや、空き時間にお伝えくださるご自身の経験談は、留学生のビジネス日本語への向上心と日本企業への就職の意欲につながっています。

#### ・小松先生(中級クラス)

クラスで学んだビジネス表現を実践的に使うゲストセッションは、学生にとって貴重かつ大きな学びです。ビジネスにおける日本語のみならず、日本のビジネスシーンの在り方やそこでの期待される姿勢など、学生は毎回多くのことを知り、また、ゲストの方々からいただけるコメントやアドバイスにより、学生たちは自分たちの成長を知り、さらに意欲を高めています。

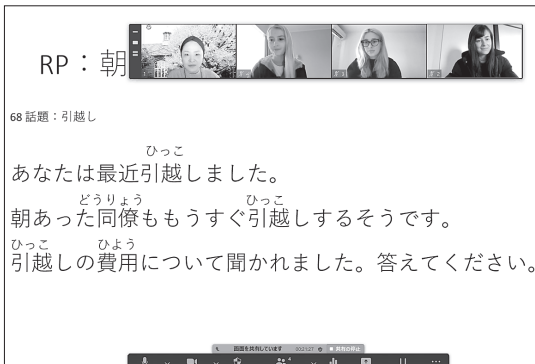
### 編集後記

本年度はコロナの影響により秋学期からの開講であったため、ニューズレターは25・26合併号となりました。

編集期間が短く委員数も例年の3分の1でしたが、Zoomやメールによる編集会議を経て何とか完成することができました。

ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

編集委員 多田一正、奈良田優、船山裕 担当教員 佐々木一也



ビジネス日本語(上級)クラス授業の様子(通常授業時。「朝の挨拶」のロールプレイ活動の場面)